



SURVEY

第3回「九州工業大学教職員意識調査」の結果(一部抜粋)を公開!

アンケート概要



実施期間	2026年3月5日～3月13日	回答数	415件
対象者	九州工業大学全教職員	回答方法	10段階評価の設問×7問、及び自由記述

今回もご協力
ありがとうございました!

PICK UP Q1

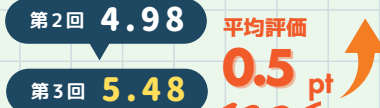
大学のビジョン等を理解している?



「体制整備」、「研究に費やす時間の増加及び施策の実施」、「業務の前向きな変化」の評価は比較的伸びた!

PICK UP Q2

大学において、ビジョン等達成のための戦略が策定され、その遂行のための体制が整っていると思う?



「ビジョン等の学内提示」、「自身のビジョン等の理解度」は微増にとどまる。特にビジョン理解度の増加率鈍化が課題。

PICK UP Q3

2024年度に比べて、研究に費やすことのできる時間が増えている?(又はそのための施策の実施)



J-PEAKS

4.14伴走支援会議に参加しました

第6回伴走支援総合調整会議を対面で傍聴し、博士や各部門長に囲まれて完全にアウェーな空気の中、まるで虎穴に飛び込む気分でした。

前半は令和7年度の振り返り、後半は少子化や社会課題をテーマにした議論でしたが、正直ちょっと抽象的で見にくいところもありました。会議後の情報交換会では、J-PEAKS主席サポーターの濱口さんと話す機会があり、「AIには電力面で限界が来る」「最後に強いのは技術を持つ人だ」と熱い言葉をいただき、九工大への期待の大きさに驚きました。若手として背筋が伸びる思いで、九工大の一員であることを誇らしく感じました。

(経営戦略室 山下)

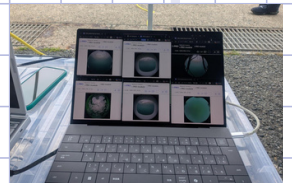
「アートには答えがない」と東京芸術大学の日比野学長がJ-PEAKSのサイトビジットでおっしゃられました。もし仮に世の中に存在する全ての「問い」をリストアップできたとしたら、その大部分は「答えのない問い」だと思います。ビジネスでは「答えのある/ありそうな問い」に向かいがちですが、「答えのない問い」に破壊的イノベーションは潜んでいるのかも知れません。研究も「結果が出そう」だけでなく「面白そう」「不思議」を大学はもっと大事にすべきなのかも知れません。日比野学長はサイトビジットを取り組んでおられる海の再生事業に準えて「アートはサイエンスの藻場である」という名言で締めくくられました。かつこよ。

MIYAKE
リエゾン
のつばやき...



Ceremony

4.10水中ロボット進水式



若松区の脇田漁港で、未来社会ロボット実装センターおよびネットワーク&スマートシステム研究センターが共同で開発した電波で操るケーブルレス海中ロボット「Mega Bee(メガビー)」の進水式が開催されました。

info.

1 仏ロレーヌ大学とのジョイントプロジェクト公募

5/12以降、重点交流協定校である仏ロレーヌ大学とのジョイントプロジェクト2026-2028公募を開始予定です。

詳細はこちら
学内者専用 Garoonへ

info.

2 第4回目の教職員アンケートにご協力ください

5月22日(金)17時〜

ビジョン2040とJ-PEAKS事業に関する意識調査。学内の浸透度を定点観測しながら、みなさんの声を施策に反映するために、定期的実施しております。

詳細はこちら
学内者専用 Garoonへ